

到達目標を明示した スペイン語教育の実践に向けて

プロジェクトメンバー：大森洋子*、三角明子、Concha MORENO、落合佐枝（*：代表者）

引き続き、以下の作業を続けている。

明学ポートフォリオに挙げた指標を見直し、より学生が分かりやすい形にする作業を始める。特に、通常の授業を考え、教科書を検討し、何ができなくてはいけないかをより明確に分かりやすい形でまとめる。

教育スタイルと学習スタイルがマッチしているかを検証する。学生の学習スタイルにある特徴があるのかないかを検証する。それに基づいて、教材、授業方法などとの整合性を検証する。（学生に協力を依頼し、本年度、次年度に実施。

学生の到達度：より客観的なテストを利用して、平均的な学生がどの程度、学習が進んでいるかを検証する。（テストの利用を検討）その上で、到達目標に修正点がないかを検証する。

また、それを報告できるような形でどのようにしたら良いかを考える。

授業：学習スタイルの検討と振り返りを考える
⇒ 学習ポートフォリオの利用方法を考える。

授業活動とその評価：積極的に授業活動の成果物を集め、検証することにより、到達度を示す資料として提示する。ルーブリック評価の作成、改善を検討する。

次年度以降

成果物を分析することによって、到達目標の修正、さらに授業内容、教材を検討するための方策を具体的に示す。

ティーチングポートフォリオを活用して、学生の活動を記録し、それを授業活動を振り返るシステムを構築する。